

ブラッシング（歯みがき） 指導の取組

プロフィール

地域

県のほぼ中央に位置する乱川扇状地に、約7千人の住民が住む。果樹園地帯であったが、北部公園も整備され住宅化が進んだ。地域の人々は教育に対する関心が高く、協力を惜しまない。

学校

天童市立天童北部小学校は、昭和57年創立、児童数492人、学級数19学級、教職員31名。「強くかしく美しい北斗の子どもを育てる」を学校の教育目標に掲げ教育実践に取り組んでいる。

PTA

会員377名、三役事業、総務部事業、広報委員会事業、学年事業のそれぞれの事業に熱心に取り組んでおり、特に総務部の資源回収や各学年事業への参加率は高い。

1 はじめに

「早寝 早起き 朝ごはん」というスローガンのもと、きちんとした基本的な生活習慣を確立して、それを毎日続けようという取り組みが全国規模での広がりのもとに展開されている。そして、きちんとした生活習慣の確立は、学習面にも非常に良い影響を与えるということが報告されている。また、『大人になった みんなへ』というパンフレットが文部科学省・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会から配布された。

2 取組のしくみ

(1) 問題意識（生活リズム調査 結果より）

基本的な生活習慣の指導のために、保健室で定期的に実施している「生活リズム調査」の結果をみると、「歯みがき」の結果が良いとは言えない。虫歯の割合も高かった。歯みがきの習慣は、生活習慣上、とても大切である。なんとかしなくてはいけないと思っていたところ、天童市教育委員会より、平成二十年度「ブラッシングモデル校」の指定を受けた。

(2) 仮説の設定

次のような仮説を立てて、家庭と学校が一緒になって取り組んでみようと思った。



歯科衛生士さんの専門的な指導

ブラッシングの大切さについて、保護者に伝えたり学校で子どもたちに伝えたり、子どもたちに上手なブラッシングのしかたを教えたりすれば、ブラッシングに対する保護者と子どもの意識は高まり、歯みがきが生活リズムとして習慣化され、その結果、学校全体の虫歯率が下がるであろう。

③ 取組の実際

月日	対象	誰が	取り組みの具体的な内容
4/14	2学年～ 6学年児童	養護教諭	校内テレビ放送で、上手なブラッシングのしかたを指導。その後、各学級では給食後に、音楽（福島市歯科医師会制作『歯みがきサンバ』）に合わせブラッシングを継続。
4/27 PTA総会	全保護者	PTA会長 養護教諭	プリントでブラッシングの大切さの説明とアンケート調査への協力依頼。
6/12	全保護者	教頭	第1回アンケート調査実施。
6/24 ～ 6/26	1学年 児童	養護教諭	各教室で上手なブラッシングのしかたを模型を使って指導。その後、1年生も給食後に、ブラッシングを継続。
7/18	4学年 児童	歯科衛生士	歯科校医「とがし歯科」からクラスに一人ずつ歯科衛生士さんに来ていただき、1時間かけてブラッシング指導。
10/20	全保護者	教頭	第2回アンケート調査実施。

(4) 仮説の中間検証

◎アンケート調査結果の比較

●回収率…第一回七十七% ↓第二回八十五%

●各項目の人数…第一回 ↓第二回

1 ブラッシング（歯みがき）
についてどう思っていますか。

- ① とても大切である
(284人→310人)
- ② まあ大切である
(6人→10人)
- ③ あまり大切ではない
(0人→0人)
- ④ 大切ではない
(0人→0人)

2 家庭でお子さんに歯を磨くよ
うに言いますか。

- ① よく言う
(211人→233人)
- ② ときどき言う
(60人→68人)
- ③ あまり言わない
(17人→15人)
- ④ 言わない
(2人→4人)

3 家庭でお子さんは歯を磨き
ますか。

- ① 磨く
(234人→265人)
- ② ときどき磨く
(45人→44人)
- ③ あまり磨かない
(9人→9人)
- ④ 磨かない
(2人→2人)

4 お子さんの歯みがきの様子
(みがき方や歯ブラシなど)
を見ていますか。

- ① よく見ている
(68人→64人)
- ② ときどき見ている
(159人→189人)
- ③ あまり見ていない
(60人→64人)
- ④ 見ていない
(3人→3人)

●アンケートの記述欄に書いてあったことへの対応
◎質問が多くあった。

(例えば…仕上げ磨きについて)

↓歯科医等専門家に回答してもらい、その結果を子ども
に話したり、おたより等で保護者に知らせた。

○『家庭でも正しい歯磨きができるように、イラスト（絵）などで説明がしてあるお便りなどがほしい。洗面所等に貼って、それを見て正しくできるように。』という記述があった。

↓これにこたえて、夏休み前にお便りを発行して、夏休みの生活の中で、子どもたちが基本的な生活習慣の一つとして、自立してブラッシングができるように配慮した。

3 中間検証についての考察 (成果と課題)

○保護者のブラッシングに対する意識は、アンケート調査（無記名で実施）回答用紙の提出枚数に表れると思われるが、第一回調査の回収枚数が二九〇枚（回収率七十七%）、第二回調査では三七六枚（八十五%）であり、回収率が八%高まっていた。この事実から、基本的な生活習慣の一つとしてのブラッシングに対する保護者の意識は全体として高まってきていると言える。特に、高学年に比べ低学年の保護者からの回収率が高く、かつ記述欄への記入が多くあった。子どもの歯みがきに対する高い意識を感じた。

○保護者のブラッシングに対する意識が高まり、ブラッシングをより大切だと認識し、家庭で子どもにも歯を磨くように言う親が増え、その結果、家庭でも基本的な生活習慣の一つとしてブラッシングをする子どもが増えてきていると言える。

○反面、項目4「お子さんの歯みがきの様子（みがき

方やブラシなど）を見ていますか。」では、「①よく見ている」の人数が減り、逆に「③あまり見ていない」「④見ていない」の人数が少し増えていることが気になった。「家庭での子どもたちのブラッシングが習慣化されてきた結果、親があまり見なくてもよくなった。」と解釈できないこともないが、まだまだそこまでは至っていない気もするので、今後の課題としてこの取組を続けていきたいと思っている。

展望

毎朝の歯みがきの大切さは理解しているものの、あわただしい朝の時間に子どもたちへの目配りが行き渡らず、子ども任せになっている家庭が多いのではないだろうか。このような中、家庭と保護者が一体となつての「ブラッシング指導」は、模型を使つての子どもたちへの指導や仮説を検証するためのアンケート調査の実施など工夫が見られる。

今後は、調査結果の効果的な活用を図り、さらに充実した指導が行われるよう期待したい。